

# 公益の風 #30



東北公益文科大学大学院  
公益学研究科 修士  
加藤 眞由美

「生きていく」とい  
ろんなことがある」。歳を  
取ればとるほどそう感じ  
るようになる。そんな紆  
余曲折の人生の中でしば  
しば現れる、立ち止まっ  
て深めたい「ある考え」  
を持つ人に、人生に研究  
という学びを加えてみた  
い人に、また「地域」の  
ことをもっと俯瞰して考  
えたい人に、東北公益文  
科大学大学院の入学を強  
く勧めたい。公益大学  
院にはそれらの「動機」  
を満たし、そしてそれを  
超える学びの体験を得ら  
れる日々が待っている。

地方にいなからユニーク  
で面倒見の良い大学院に  
通える幸運

私は以前から「人の適  
性に合った学び方」(教  
育心理学)に強く興味関  
心があった。そのような

## 大学院入学ノススメ

思いの中、自分自身を一  
度、どうしても「学ばな  
ければならない環境」に  
縛り付け、そのテーマを  
しっかり深めてみたいと  
決意し、それまで全く関  
心のなかった公益大学  
院に53歳で入学した。公  
益大学院には当時、私  
の目指す学問分野の専門  
教員はいなかったのだが  
「自分の関心を深く掘る  
にはどうしたら良いか」  
「どういう形にすれば研  
究といえるのか」を指導  
してくださる先生方に出  
会い、そのおかげで研究  
を進めることができた。

書を持って、外(学会・  
研究会、関連するイベン  
ト・企画等)に出かけれ  
ば、そこでまた新たな人  
脈や新たな興味が手に入  
る。多くの人との出会い  
や機会を通して、さらに  
全方向に私の学びの世界  
は広がり続ける。それら  
の経験は、跳ね返って自  
分の新たな面を知ること  
にもつながり、自己覚知  
の海を深く潜っていくよ  
うな感覚すら覚えた。大  
学院入学後、私は「いふ  
ん生きやすくなった」。

を送ることができると  
か、相談に乗ってもら  
うこともできる。  
修士課程を修了した私  
は現在、公益大酒田キャ  
ンパスで自分の研究内容  
を活かした形で、学部生  
の学習支援を行っている。  
また鶴岡キャンパス  
の大学院では、地域共創  
事業を補助する仕事をし  
ている。大学院入学前  
には想像すらできなかった  
展開だ。  
いろいろなことがある  
のが人生で、その人生  
が「巡り合わせ」で作ら  
れるのだとしたら……。こ  
の大学院が庄内のこの地  
にある巡り合わせを自ら  
活かし、ほんの一步踏み  
込んでみるのはどうだろ  
う。すぐ近くにあるこの  
場所を、もっと利用しな  
いともったいない。

まずは毎回の講義の中  
にある「知の波」に圧倒  
された。学生の力量を見  
ながら、対話型で授業を  
あたたく進めてくださ  
り、自分の人生では触れ  
てこなかった内容の「現  
代の知見」が大きく広  
がっていく。私の頭の中  
がどんどんフラッシュ  
アップされていった。学  
友はそれまでの自分の人  
間関係を大きく飛び越え  
て、様々な年齢や職層か  
ら入学してきており、そ  
んな方達と共に学ぶこと  
も自分の視野を広げたと  
思う。大学院生という肩

東北公益文科大学は、  
実は教育充実度の評価が  
高い。特に大学院は社会  
人学生にとって通いやす  
い環境が整っている。夜  
間や土曜日の授業、24時  
間利用可能な研究スペー  
ス、図書館に蔵書  
リクエストができ  
るなど、快適に研  
究できる制度が多  
数ある。入学決断  
をする前に事務室  
を通じて大学院教  
員と面談すること  
も可能で、自分の  
思い描く院生生活

### 安心して門を叩ける



「公益学総論」の授業  
履修者と教員によるディスカッション

ほんの少しの勇気と粘  
りを持って踏み出すこと  
が、次の大きな展開を招  
く。これも私が大学院で  
学んだことのひとつであ  
る。東北公益文科大学大  
学院入学を心からオス  
メしたい。